

書誌用語		用語の意味			
漢籍	国書	長澤規矩也『国書学辞典』三省堂, 1979	『漢籍目録カードのとりかた』京大人文研, 2005	川瀬一馬『日本書誌学用語辞典』雄松堂, 1982	『日本古典籍書誌学辞典』岩波書店, 1999
刊本	版本・板本・刻本・刊本・印本・摺本(すりぼん)	出版された本。	木版本。一枚板による版本で印刷したもの。	版木で刷った本。	版(板)を刻(刊も本来道義)し、紙面に印刷して書籍としたもの。
活字印本・聚珍(しゅうちん)本	活字版・活版・一字版・植字版・活字本	一字づつ彫刻又は鑄造された文字を組み合わせて版を作り、この組版に墨又はインクを塗って印刷した本。	木活字や金属活字等を用いて組版印刷したもの。	一字づつ独立して作られた文字を組み合わせて原版を作り印刷する方法。木製・金属性がある。	一字づつ造られた活字を組み合わせて印刷する方法。またその方法で印刷された本。
木活字印本	木活字版(木活字版、近世木活版)・木活字本	木製の活字で印刷された本。	木活字を用いて組版印刷したもの。	木活字で印刷した本。	木製の活字で印刷した本。
銅活字印本	銅活字版(駿河版、元和勅版)・銅活字本	銅製の鑄造活字版。銅を材料として鑄込まれた活字版の総称。	銅活字を用いて組版印刷したもの。	銅で鑄造した活字版。	銅で鑄造した活字を組んで印刷した本。
排印本・鉛印本・鉛槧(えんざん)本	活字本・活版本	西洋式の活字で印刷された本。	活字印刷のうち、西洋式の鉛活字を用いて組版印刷したもの。鉛印本とも称する。	活字印刷の法によって作られた本。主として鉛活字で印刷されたものをいう。	中国清代、19世紀初頭に欧人の宣教師によって導入された鉛活字で印刷された本。
石印本	石版本	本来は特殊の転写紙に手書きした原稿を、ドイツのドナウ河岸から産出された天然石である石版石に転写機を使って転写したものを原板として印刷した本。	平版印刷の一種。化学処理により、文字や図版などが描かれた部分にのみ油性インクが付着するようにして印刷したもの。	石版による印刷本。石版印刷は、石版石に特殊インクで書写した原稿紙を転写して製版印刷する方法。	石版印刷で刷られた用紙を作って製作された本。石版は水と油の反発性を利用した平版印刷の一種である。
銅版印本	銅版本	銅版印刷による刊本。		銅版で印刷したもの。銅版の印刷は西洋の法を学んで江戸後期から行われた。現在の銅版は腐食銅版(エッチング)とはことなり彫刻銅版であった。	平らに磨かれた銅板に線を彫り、そこにインクを詰め、強い圧力をかけて印刷する技法。
景印本	影印本・影譜	原本を写真に撮影して、それをコロタイプ版なり、オフセット版に作り、科学的方法を応用して作られた複製本の称。	写真を撮って製版・印刷したもの。いわゆる影印本のこと。	写真製版によって複製した本をいう。	古写本や古版本を写真製版によって複製した本。
拓本・滌本(とうほん)・打本・碑本	石摺本	木版印刷の源流となったものといわれるもので、石碑なり、金属なりの面に軽く水を打ち、紙をその上にあてて、面と紙との間の空気を抜いて、紙を面に密着させ、半がわきになったときに、紙の上から下面に拓本用の墨を塗った「たんぼ」の底面でたたいて、面の文字なり画像を紙面に写す方法。	石碑の碑面を原寸大のまま摺りうつしたもの。	金石文の彫刻文字(又は線画)を紙にうつし取る方法。金石の面を軽く水で濡らし、紙をびたりと宛て、半乾きの湿り具合を見はからい、上から摺拓用の墨を附けた「たんぼ」で軽く叩いて文字(又は線画)を白抜きに浮かび出させる。	石摺りとも。また湯本(とうほん)・打本・碑本などという。石碑や釣鐘、土器や瓦などに刻まれた文字や文様を、墨を用いて原寸大に紙に写し取る方法。またそのもの。
鈔(しょう)本	写本・書写本・書本・筆写本	手書きの本。肉筆で記された本。	手書きの本。抄本とも書く。いわゆる写本のこと。	書き記した本。書き写した本。	手書きした書籍で、鈔本、書き本ともいい、印刷された版本(刊本・印本)と対応する呼び方である。
鈔印(けんいん)本			鈔本：印章を直接捺した紙を製本したもの。		
油印本・孔版本	謄写版・ガリ版本	謄写版を使って印刷された本。	謄写版印刷によるもの。	謄写版印刷で作られた本。	明治27年にT・エジソンの簡易印刷機をヒントに発明した軽便な謄写版によって印刷された本をいう。
套印(とういん)本	多色刷り本	墨の外、二色以上の色で刷ったもの。	多色刷りのもの。		数種類の色による套(重)ね刷り(套版)をした本。
唐本		シナ古来の装訂の本。		シナで作成された古来の装訂の本。	舶載された漢籍のこと。
韓本	朝鮮本	朝鮮古来の装訂の本。		古来、朝鮮半島で作られた本。	朝鮮半島における刊本及び鈔本の呼称。江戸時代よりの日本人による呼称。朝鮮本。高麗本。
和本	和装本	日本古来の装訂の本。		和紙を用いて、わが国に古くから行われている装訂で作られている本。	和装本：わが国の装訂法によって製本された本。和本ともいう。
補鈔	補写		補鈔：欠けた部分を手書きで補う。(補配：欠けた部分を別の本で補う)	補刻本：版木の一部が損傷したり、欠落したりして、その部分を後から補って彫板を加えた本。	補写：一部の書籍のうち、欠脱した部分を、他本を新しく書写することによって補うこと。一巻(冊)のうちの一部を補うことも、複数巻(冊)の一巻(冊)を補うこともいう。
題籤	題籤	書名や順序数など記されて、表紙に張り付けられた、細長い小紙片。	表紙や帙に貼付した短冊形の紙。	書物の表紙に貼付する細長い小紙片で、書名・巻数などを表記する。	表題書きともいう。書物の書名や巻数・順序などを墨書きしたり印刷して記した紙片で、表紙の左上方や中央上部に貼り付けて示したもの。
封面	見返	封面：見返し又は扉と同義の漢語。見返：表紙裏の、書名その他のあるページ。	洋装本のタイトルページに相当し、書名・著者名・出版者・刊行年などを記している。商業出版の場合、広告的な要素が加味されることも多い。	前表紙の裏。江戸時代後半の版本では、見返に書名その他広告的な印刷などがあるものが少なくない。	前表紙の裏。
副葉	遊び紙・添紙	書衣(表紙)の内側にもう一枚つけた無地の頁。扉葉、護葉ともいう。遊び紙：副葉の和語であるが、巻末の白紙をいう。		書物の本文の前後に添える白紙。	列帖装や袋綴じなど冊子体の形式の書物で、本文半分を保護する目的で、本文の前後に添えられる白紙のこと。
版式		版面の形式。刊本の様式。		版本の版面の形式。版本の様式。	版本の版面の様式をいう。
匡郭	匡郭	本文の四周のわく。輪郭。版匡。辺欄。わく。		枠。本文の四周をかこむしきり。輪郭。	木版本や活字本などの版本の各丁の四周を囲む枠線のこと。
界	界線	行間の縦線。		文字の行をさかいする線。	界(け)：料紙や書写、印字面の上下の境界や行の境を示すために規則的に引かれる線を界(界線・界行)、または罫(罫線)と呼ぶ。
行格・行款	行	字づめ。		一行の字詰。	行款：一行の字詰めのことで、漢籍の用語。行間を数えるには半葉を標準とする。
注文(ちゅうぶん)		本文に対して、注釈の文章。		本文を説明・解釈した文。	
首書	首書・頭書(かしらがき)・龍頭(ごうとう)	龍頭：上層(余白が足りないときはのどの方にも)の注。		本文の上層に記した注記。龍頭(ごうとう)。	首書(しゅしょ)：頭書きともいう。頭注のこと。
圈点		文章の要点を示す符号として、文字の右わきにつける「。」や「、」。		丸いしるし。文章中、要注意を表示するために右側に施す「。」点、又「、」点をもいう。	声点(しょうてん)：文字の四隅、または平および入の上部に差してその拍の高平・低平・上昇・下降を示す点で、前者を四声の体系、後者を六声の体系で注記という。
批語		本文中の圈点の間の解説文。			
魚尾・燕尾		版心にある【】又は【】状のもの。魚の尾の形に似ているのでいう。		版心(柱)にある魚の尾に似ているものをいう。	版心に付された魚の尾に似た上下一対の印。漢籍では燕尾ともいう。
版心題	版心書名、柱題、柱書	版心書名：版心に記された書名で、多く略称になっている。		柱(版心)の部分に表記された書名。	柱書き：柱(版心)の部分に記載された書名。
巻尾題	尾題	各巻の末[の題名]			尾題：編や巻の最後に記された書名のこと。
巻尾跋	後跋・跋・跋文・跋語・後序・書後・あとがき	跋：編著者や、その依頼を受けた人が書いて巻末に加えた批評や感想の文章。		編著の次第などを巻末に付記する文章。	跋：編著者の次第などを巻末に付記する文章。
刊記		刊本の出版年月、出版地、出版者名の全部又は一部を刻入したところの称。		刊本について出版の要領を付刻した表記。	刊本に付した、刊行年月日・刊行者とその居住地等の表示。
奥付		もとは別丁になった刊記のこと。		書物の巻末に付ける意で、刊記を附印した丁。	版本の刊記部分を巻末に別丁に仕立てたもの。